

令和3年8月定例市議会

行政報告要旨

総社市

本日、8月定例会市議会を招集いたしましたところ、議員各位におかれましては、万障お繰り合わせの上、ご出席くださいまして誠にありがとうございます。また、日頃から市議会の皆様の、新型コロナウイルス感染症対策へのご協力と、議会運営に、格別のご配慮を賜り重ねてお礼申し上げます。

さて、本議会は9月の改選を控え、現体制での最後の議会となります。任期中は、平成30年7月豪雨災害や新型コロナウイルス対応など、市民の生命に関わる非常に大きな出来事が続きました。議会におかれましては、度重なる臨時議会や緊急性の高い議案に、スピード感を持って対応していただきました。それだけではなく、災害時のお弁当配送や復旧活動、ワクチン運搬など、現場でも汗を流して尽力していただきました。あらゆる困難に対して、我々執行部と一致団結して取り組んでいただいたことに、深く感謝を申し上げます。

1) 新型コロナウイルス関連

まず始めに、新型コロナウイルスについては、全国的に第5波が猛威を振るう中、本市は、隣接する岡山市、倉敷市に

まん延防止等重点措置が適用され、市内の感染者が増加する、非常に緊迫した状況となっております。

希望の光であるワクチン接種については、8月22日時点で、1回目完了者が44,435人で全人口の63.8%、そのうち2回目完了者が36,529人で全人口の52.4%となっております。7月15日から進めてきた、モデルナ大規模集団接種が終了する9月5日には、接種希望者の9割以上、全人口の65%以上が2回目接種完了となります。さらに9月末日には、実に全人口の7割以上が2回目接種完了見込となります。

子どもの接種については、学校での集団接種について、多くの批判的ご意見が寄せられました。そこで改めて、12歳から15歳の子どもたちの家庭に対して、ワクチン接種に係るアンケート調査を実施いたしました。その結果、希望する、様子を見て判断するという回答が全体の約8割、その中で、接種方法については、学校での集団接種を希望するという回答が約4割、検討中との回答が約3割という結果になりました。これを踏まえ、7月7日に「総社市感染症専門家会議」

を、7月8日には「そうじゃ総合教育会議」を開催し、議論を重ねた結果、本市では、個別医療機関での接種と18歳未満の子ども向けの集団接種を進めております。

本市は、WHOが目安として掲げる人口の7割へのワクチン接種、その達成に近づいている状況にあります。これが、果たして集団免疫達成と言えるのか、達成されたのであれば、今後はどのような方針で、さまざまな市民の活動を再開することができるのか、議会や専門家会議にお諮りしながら決定し、市民の皆様にお示ししてまいります。

ワクチン接種では、協定締結企業や大学の方々が、ボランティアを買って出てくださり、医療従事者や職員と共に、一丸となって、総社流の接種体制を築き上げました。総社市民のためにご尽力いただいたことに、この場をお借りして感謝申し上げます。

2) 大雨の状況

去る8月12日から、停滞する秋雨前線の影響で降り続いた大雨は、日本列島に甚大な被害をもたらしました。法改正

により避難勧告がなくなり、避難指示のみとなった、初めての災害です。本市は、土砂災害警戒情報の発表が予想される危険な状態となったため、避難指示を発令して、自主避難所を含め16か所の避難所を開設し、避難者総数は371人になりました。避難所では、新型コロナウイルス対策として、体育館に家族単位で個別のテントを張って対応しました。これは、他との接触を断つという点で非常に効果があったほか、プライバシーの確保という点からも好評をいただきました。そして、各避難所に、ペットスペースを設けたことで、多くのペット愛好者の積極的な避難につながりました。この避難所の在り方を、一つのモデルケースとして、今後の災害対応に活かしてまいります。

幸いにも、本市は、市民生活に影響を与えるような大きな被害にはいたりませんでした。これは、中国電力によるダムの事前放流や、国や県による高梁川の堤防整備、樹木伐採、河道掘削など、平成30年7月豪雨の経験を踏まえた、関係各位の取組の成果であると感じています。

さらに防災力を強化する目的で、今議会に、高梁川の水位

をリアルタイムで監視する河川監視用カメラの補正予算を上程しております。

また、7月には、令和4年度予算に向け、岡山県や岡山国道事務所、岡山河川事務所に対し、高梁川を始めとした市内河川の治水対策、特に軽部川の改修について強く要望しております。軽部川については、市が実施した調査結果を踏まえ検討していくとの、県からの回答をいただいております。

これからの本格的な台風シーズンに向けて、市を挙げて万全の対策を取ってまいります。市民の皆様も、避難所や避難経路の確認、防災用品の備蓄など、命を守るため、万全に備えていただきますようお願いいたします。

3) 新型コロナウイルス後の社会へ

さて、本市は言わずと知れた、全国屈指の福祉文化先駆都市です。この1年余り、新型コロナウイルス対策の優先度が高かったことは否めませんが、ワクチン接種が進んだ今、総社市の強みをさらに深化させてまいります。その第一歩として、ヤングケアラー支援に本格的に取り組むべく、今議会に、

県内初となる「ケアラー支援条例」を上程しております。特に18歳未満のヤングケアラーについては、関係機関とさらに連携し実態を浮き彫りにし、すべての子どもたちが心身共に健やかに成長・自立できるよう、確実に必要な支援につなげてまいります。具体的な施策や目標については、「総社市子ども・子育て会議」や「全国屈指福祉会議」において、専門家の意見を伺いながら、迅速に検討を行ってまいります。

去る7月1日には、「総社市フードドライブネットワーク」をスタートさせました。これにより、本市の生活困窮センターや順正学園ボランティアセンター等と連携して、生活困窮者の方を効率よく、かつ途切れることなく支援できる体制を構築しました。

本市は、新型コロナウイルス後の未来を見据え、強みである社会的に弱い立場の方に徹底的に寄り添う施策を推し進め、「あなたにとって一番やさしいまち総社」の実現を図ってまいります。

4) ギニアビサウ共和国との交流

東京2020オリンピックでは、多くのアスリートが活躍し、我々は多くの感動と勇気をいただきました。総社市出身の女子ソフトボール、原田のどか選手と、陸上の新谷仁美選手の、勝利へのひたむきな姿には、胸が熱くなりました。本市はホストタウンとして、柔道のギニアビサウ共和国代表、タシアナ リマ セザール選手を受け入れました。今後は、このご縁を絶やすことなく、本市とギニアビサウ共和国の子どもたちとの交流を実現させたいと思っています。ギニアビサウ共和国は、国民一人当たりの平均月収は日本円で約5千円、識字率は25%、学校に通えない子どもは23%です。この子どもたちのために、9月6日から、文房具等を支援するための寄附を募ってまいります。市民の皆様、温かいご協力をお願い申し上げます。

(6月議会での検討について)

ここで、6月議会での検討事項につきまして、その結果をご報告いたします。

三宅議員から、プラスチックごみ削減に向けた強い意志を発信してはどうか、とのご意見をいただきました。これについては、10月29日に実施予定の、「野口健 環境学校」に合わせて、プラスチックごみゼロ宣言をするための準備を現在進めているところでございます。

コロナ禍においても、8月20日には過去最大人口69,810人を記録し、まさに7万人の大台が目前に迫っています。この勢いに、私自身、身を奮い立たせ、一日でも一刻でも早く、市民の皆様に平穏な生活を取り戻していただくため、全身全霊をかけて取り組んでまいります。

最後に、9月に突入する選挙戦で、出馬される議員の方々が、必ずや当選して、この本会議場でまたお会いできますことを心からお祈り申し上げます。

議員の皆様、市民の皆様の、より一層のご理解と、ご協力をお願い申し上げ、私からの行政報告とさせていただきます。